

第1章 高齢化の状況

第1節 高齢化の状況

高齢化の現状と将来像

5人に1人が高齢者という社会

- 我が国の総人口は、平成20（2008）年10月1日現在、1億2,769万人で、前年（1億2,777万人：19年10月1日現在推計人口）に比べて約8万人の減少となった。65歳以上の高齢者人口は、過去最高の2,822万人（前年2,746万人）となり、総人口に占める割合（高齢化率）も22.1%（前年21.5%）となり、22%を超える結果となった。
- また、高齢者人口のうち、「65～74歳人口」（前期高齢者）は1,500万人（男性706万人、女性794万人、性比88.9）で総人口に占める割合は11.7%、「75歳以上人口」（後期高齢者）は1,322万人（男性499万人、女性823万

人、性比60.6）で、総人口に占める割合は10.4%となり、初めて10%を超えた（表1-1-1）。

2.5人に1人が65歳以上、4人に1人が75歳以上

- 総人口が減少するなかで高齢者が増加することにより高齢化率は上昇を続け、平成25（2013）年には高齢化率が25.2%で4人に1人となり、47（2035）年に33.7%で3人に1人となる。54（2042）年以降は高齢者人口が減少に転じても高齢化率は上昇を続け、67（2055）年には40.5%に達して、国民の2.5人に1人が65歳以上の高齢者となる社会が到来すると推計されている。総人口に占める75歳以上人口の割合も上昇を続け、いわゆる「団塊ジュニア」（昭和46（1971）～49（1974）

表1-1-1 高齢化の現状

単位：千人（人口）、%（増加率、構成比）

		平成20年10月1日			平成19年10月1日		
		総数	男	女	総数	男	女
人口 (万人)	総人口	127,692	62,251 (性比)95.1	65,441	127,771	62,310 (性比)95.2	65,461
	高齢者人口（65歳以上）	28,216	12,044 (性比)74.5	16,172	27,464	11,703 (性比)74.3	15,760
	65～74歳人口（前期高齢者）	14,998	7,058 (性比)88.9	7,939	14,760	6,938 (性比)88.7	7,822
	75歳以上人口（後期高齢者）	13,218	4,986 (性比)60.6	8,233	12,703	4,766 (性比)60.0	7,938
	生産年齢人口（15～64歳）	82,300	41,405 (性比)101.2	40,895	83,015	41,745 (性比)101.2	41,270
	年少人口（0～14歳）	17,176	8,802 (性比)105.1	8,374	17,293	8,861 (性比)105.1	8,431
構成比	総人口	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	高齢者人口（高齢化率）	22.1	19.3	24.7	21.5	18.8	24.1
	65～74歳人口	11.7	11.3	12.1	11.6	11.1	11.9
	75歳以上人口	10.4	8.0	12.6	9.9	7.6	12.1
	生産年齢人口	64.5	66.5	62.5	65.0	67.0	63.0
	年少人口	13.5	14.1	12.8	13.5	14.2	12.9

資料：総務省「推計人口」（各年10月1日現在）
 （注）「性比」は、女性人口100人に対する男性人口

年に生まれた者)が75歳以上となった後に、67(2055)年には26.5%となり、4人に1人が75歳以上の高齢者となると推計されている(図1-1-4)。

年少人口、出生数とも現在の半分以下に、生産年齢人口は4,595万人に

- 年少人口(0~14歳)は平成51(2039)年に1,000万人を割り、67(2055)年には752万人と、現在の半分以下になると推計されている。
- 出生数の減少は、生産年齢人口(15~64歳)にまで影響を及ぼし、平成24(2012)年に8,000万人を割り、67(2055)年には4,595万人となると推計されている。

現役世代1.3人で1人の高齢者を支える社会の到来

- 65歳以上の高齢人口と15~64歳の生産年齢

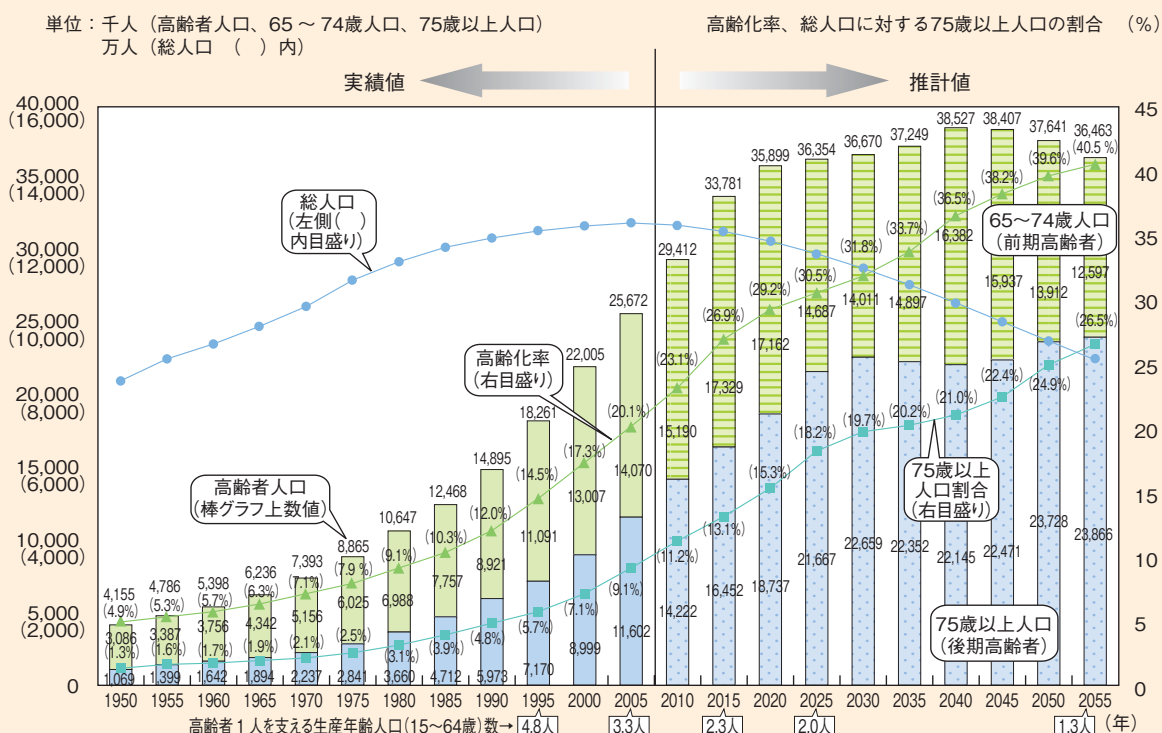
人口の比率をみると、昭和35(1960)年には1人の高齢人口に対して11.2人の生産年齢人口がいたのに対して、平成17(2005)年には高齢者1人に対して現役世代3.3人になっている。今後、高齢化率は上昇を続け、現役世代の割合は低下し、67(2055)年には、1人の高齢人口に対して1.3人の生産年齢人口という比率になる。

仮に15~69歳を支え手とし、70歳以上を高齢人口として計算してみても、70歳以上の高齢人口1人に対して生産年齢人口1.7人という比率となる(表1-1-6)。

男性83.67歳、女性90.34歳まで生きられる

- 平均寿命は、平成19(2007)年現在、男性79.19年、女性85.99年であるが、今後、男女とも引き続き延びて、67(2055)年には、男性83.67年、女性90.34年となり、女性の平均

図1-1-4 高齢化の推移と将来推計



資料：2005年までは総務省「国勢調査」、2010年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

寿命は90年を超えると見込まれている（図1-1-7）。

高齡化の国際的動向

我が国は世界のどの国も経験したことのない高齡社会となる

○ 先進諸国の高齡化率を比較してみると、我が国は1980年代までは下位、90年代にはほぼ

表1-1-6 高齡世代人口と生産年齢人口の比率

	生産年齢人口（15～64歳）を支え手とすると			15～69歳を支え手とすると	
	(a) 65歳以上を何人で支えるのか	(b) 70歳以上を何人で支えるのか	(c) 75歳以上を何人で支えるのか	(b)' 70歳以上を何人で支えるのか	(c)' 75歳以上を何人で支えるのか
平成17（2005）年	3.3	4.6	7.3	5.0	7.9
20（2008）年	2.9	4.1	6.2	4.5	6.8
27（2015）年	2.3	3.2	4.7	3.6	5.3
37（2025）年	2.0	2.4	3.3	2.7	3.6
47（2035）年	1.7	2.1	2.8	2.4	3.2
57（2045）年	1.4	1.7	2.4	2.0	2.7
67（2055）年	1.3	1.5	1.9	1.7	2.2

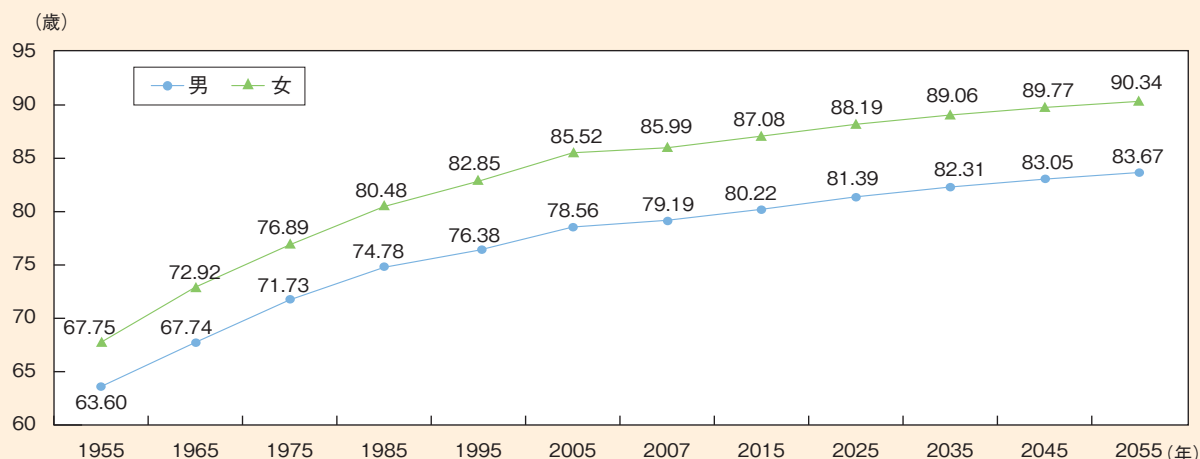
資料：平成20年は総務省「推計人口」
他は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成18年12月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

（参考）65歳以上の者を支えてきた15～64歳の者の人数
（1人当たり）（単位：人）

昭和35（1960）年	11.2
40（1965）年	10.8
45（1970）年	9.8
50（1975）年	8.6
55（1980）年	7.4
60（1985）年	6.6
平成2（1990）年	5.8
7（1995）年	4.8
12（2000）年	3.9

資料：総務省「国勢調査」より作成。

図1-1-7 平均寿命の推移と将来推計



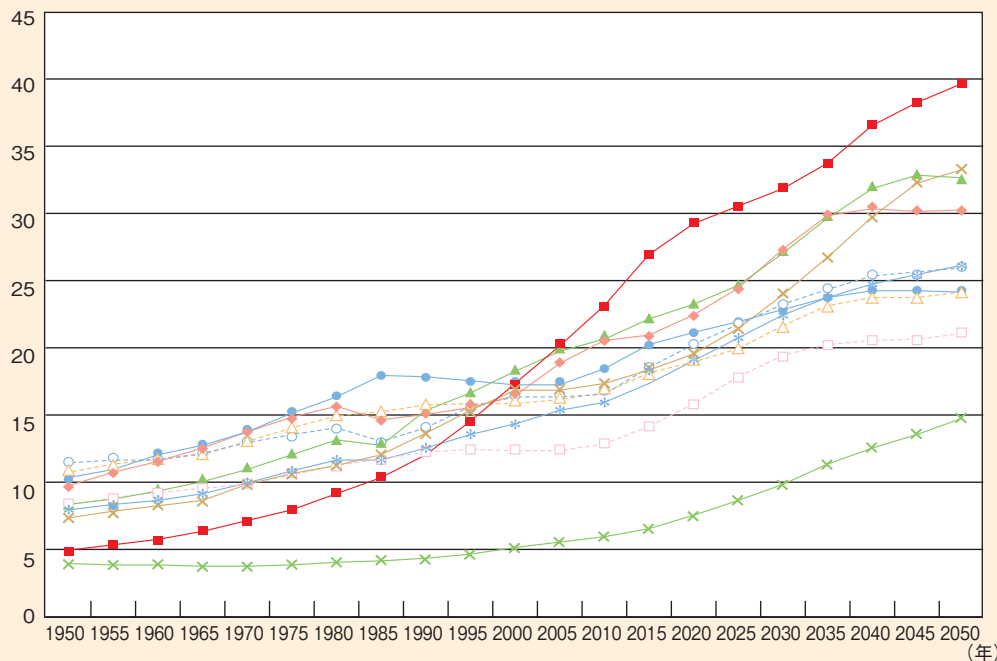
資料：2005年までは、厚生労働省「完全生命表」、2007年は厚生労働省「簡易生命表」
2015年以降は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成18年12月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

中位であったが、21世紀初頭には最も高い水準となり、世界のどの国もこれまで経験した

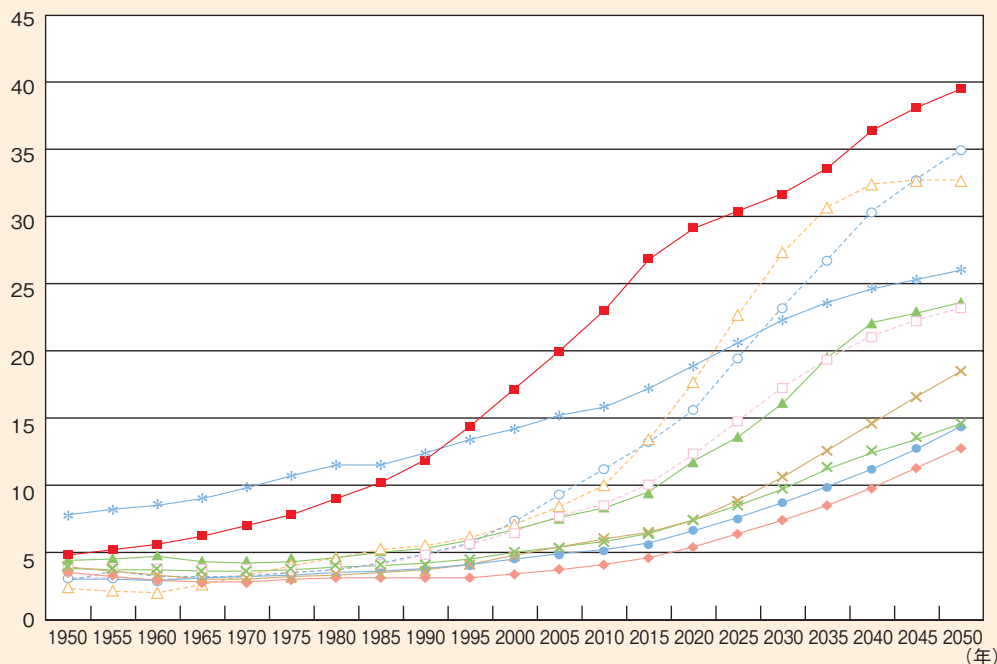
ことのない高齢社会になると見込まれている (図1-1-13)。

図1-1-13 世界の高齢化率の推移

1. 欧米 (%)



2. アジア (%)



資料：UN, World Population Prospects: The 2006 Revision

ただし日本は、総務省「国勢調査」及び国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成18年12月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果による。

(注) 先進地域とは、北部アメリカ、日本、ヨーロッパ、オーストラリア及びニュージーランドをいう。

開発途上地域とは、アフリカ、アジア（日本を除く）、中南米、メラネシア、ミクロネシア、ポリネシアからなる地域をいう。